

## 第1回 奈良県立高等学校入学者選抜検討委員会 議事要録

1 日時 令和3年11月8日(月)10時～12時

2 場所 奈良県庁 東棟2階 教育委員室

3 出席者(敬称略)

京都大学特任教授	小松 郁夫
県議会文教くらし委員会委員長	森山 賀文
県都市教育長協議会会長	上田 陽一
県町村教育長会会長	小谷 隆男
県PTA協議会会長	春山 真美
県高等学校長協会会長	吉田 浩一
県中学校長会会長	深瀬 重雄
県小学校長会会長	森永 晃

(※ 委員欠席1名)

県教育委員会教育長 吉田 育弘  
他、県教育委員会事務局職員 4名

4 概要

(1)開会

○県教育委員会教育長<あいさつ>

・入学者選抜「試験」の検討だけでなく、どのような子どもたちをどのように高等学校に入ってもらおうかということまで検討していただきたい。

・奈良県では特色選抜として、特色のある学校学科で先に入試を行う流れになってきて、今も続いている。昨今は、入試の機会の複数化というものに対して、現役の高校生に多大な負担(入試期間は授業ができない等)をかけるので、全国的に入試の機会を1回にするという流れも出てきているのが現状。

・学習指導要領が改訂されて、学力だけではなく興味関心等も評価し、指導要録を変えることになった。中・高で子どもたちをどのように評価するのかは今後大切な視点になると考える。そのような意味から入学者選抜を見直すため、この委員会を立ち上げた。1年をかけて入試の在り方を見直すため、ご意見を賜りたい。

(2)協議

○事務局より<資料に基づき説明>

○委員より<主な意見>

・県内の高校において、上位の5校ぐらいの競争率が高い。学力の高い生徒が上位の県立高校の受検に失敗をしたとき、県内から県外へ行ってしまおう状況であると思う。県内に残って県内の教育を受けることにつながる体制が弱いと思う。

・特色選抜がはじまったときには、子どもたちの様子をみていると、行きたい学校という選択もあるが、少しでも早く決めたいという思いが強かったと思う。ただ、近年は、行ける学校や早く決まる学校よりも、行きたい学校という認識はある程度定着してきている。

・生徒数も減っているなので、私立の受検の合格者が多くなった印象がある。早くに合格を

出されると私立に流れていってしまう。二次募集で試験を受ける普通科高校の子どもたちは非常に少なく、二次募集でも定員が割れてしまっているということが起こっている。何とか奈良県内で、行きたい学校に行ける方法はないかと思う。

・中学校卒業の段階で自分の将来をしっかり見据えられている子どもたちがどれほどいるか。高等学校の特色をしっかり学ぶとともに、自分の分析をしたり、将来を考えられるような機会を持たせたりしていかなければならないと思う。

・地元校で大学生となることを目指していけるように、魅力、活力ある高校づくりには賛成。両方叶えていくことは難しいことかもしれないが、必要なことだと考える。いろいろな選択肢が用意されているということは必要。

・奈良県の子どもたちのアンケートでは、普通科を希望する子が80%ぐらいとなっている。特色選抜はいいと思うが、中学生で夢があるか、という点は難しいと考えている。特色を考えた高校選択は、子どもたちには難しいのではないかと思う。普通科を増やしてほしいという声が多い。

・前回の再編で行ける学校から行きたい学校へと変わったが、高等学校もそのような学校がつくれているのかということを考えていかなければならない。私学での実質授業料無償化の制度ができてから、公立は少々無理なところでも挑戦し、だめな場合は大阪・京都の私学に、という進路指導が行われているのではないかと思う。

・国が示す令和の日本型教育、これからの時代に必要な力を身に付けさせるための学校教育の在り方を教員一人一人が把握し、あの高校に行けばこんな授業が受けられる、と示すことができればよい。

・中教審答申が期待している学力観を入学者選抜にどのように具体化していくか。あまり入試を利用するのはどうか、ということもあるが、中学校以下の教育をしっかりと評価して、高校に入ってから学力、資質・能力というものをしっかりと評価できるようになるといい。

・奈良県の調査書は、2年3年が1：2となっている。1年からはじまり、そろそろ頑張りたいという2年生になり、3年生で更に頑張る、ホップ・ステップ・ジャンプのようになっているのは、昔は1年生の成績も調査書に入っていた時代もあったということを見ると、よく工夫された制度だと思う。

・奈良県の保護者の意識が、奈良、畝傍、郡山に行くことが1つのステータスになっているのではないかと思う。地元の高校よりもそれらの高校を選ぶ、そのような意識が強い現状があるのでは。高校入試は、小学校段階からも、特に保護者がみている課題。

#### ○事務局より<次回以降のテーマの提案>

ア 受検機会に関すること

イ 多様な能力を評価する選抜方法に関すること

ウ 生徒の多様な受け入れに関すること

#### ○委員長まとめ

次回以降の委員会で、協議を深めていく。

#### (3)閉会

#### ○事務局より

・今後について事務連絡